

青少年育成センターだより

第10号 平成29年1月

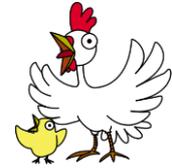


「新しき 年の初めの 初春の 今日降る雪の いや重け吉事」 (大伴家持)

(元旦で立春の今日は、雪が降り積もるようにいよいよ重なれ、よきことよ)

いよいよ、平成29年の幕が開きました。今年は酉年です。

「一年の計は元旦にあり」と言いますが、皆さんもよいスタートを切られたことでしょうか。今年一年が皆さんにとって良い年であるようにと祈念しています。



読書の勧め

皆さんのお子さんは、ご家庭でどれくらい本を読んでおられますか？

「良く読んでいる」「時々、読んでいる」「まったく読まない」など、皆さんのお子さんはどれに当てはまりますか。

読書について、PISA（世界各国の15歳を対象に実施する学習到達度調査）の結果が発表されています。学力トップの上海は

「読書しない」が8%にすぎず（日本は44.2%）、毎日31分以上を読書に費やす割合が56.1%（日本は30.4%）と他の国に比べて突出して高いのです。このことから、読書をよくする子は学力が高いということが出来ます。（数字は2009年調査のもの）

読書をする则知識量が増え、学力が付きます。また、様々な価値観に触れることができ、その後の人生の指針になることもあります。これは、学力を付けること以上に大切なことです。

大人になって、その道を成した人は子どもの時に本をよく読んでいたということを知ります。本は、「生きる力」を付けてくれ、「心を豊か」にしてくれます。勉強をすることも大切なことですが、本を読むことはそれ以上に大切なことなのです。また、読書の習慣が身に付けばゲームをしたり、テレビを見たりする時間が少なくなるかもしれません。

数ある書物の中でも、小・中学時代は伝記を読むといいのではないのでしょうか。「自分も〇〇さんのような人間になりたい」「自分も世の中の役立つ人間になりたい」等と思うようになり、それからの生活習慣が変わります。吉田松陰先生が「志を立てて以て万事の源と為す」ということを言っておられます。若い時にしっかりと志を立てることはとても大切なことです。子どもたちには伝記を勧められたらいかがでしょうか。

全ての本を買う必要はありません。学校や市の図書館にも沢山の本があります。活用するとよいでしょう。皆さんも新しい年が始まったことをきっかけに、本を読むことを始められたらいかがですか。お父さん、お母さんが楽しそうに本を読んでいる姿は、子どもの本を読むきっかけになるものです。今年1年間、どれだけの本を読むことができるか、親子でチャレンジされるのもいいかもしれませんね。

